

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成30年度相模原市子ども・子育て会議 第5回子ども・子育て支援事業計画策定部会		
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8316(直通)		
開催日時		平成31年2月28日(木) 午後6時から8時		
開催場所		けやき会館 職員研修所大研修室		
出席者	委員	8人(別紙のとおり)		
	事務局	11人(こども・若者政策課長ほか10名)		
公開の可否		可	不可	一部不可
公開不可・一部不可の場合は、その理由		傍聴者数		
		0人		
会議次第		1 開 会 2 議 題 (1) 次期相模原市子ども・子育て支援事業計画の策定について (2) その他 ・ニーズ調査について(報告) 3 閉 会		

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

2 議 題

(1) 次期相模原市子ども・子育て支援事業計画の策定について

現行計画を策定した時にもこの部会を立ち上げて、委員それぞれの立場から意見をもらいながら計画を策定した経緯がある。次期計画の策定にあたっては現行計画を基本とするが、そこから5年が経過しているので、国の方針や社会状況の変化などを踏まえつつ、各委員からはそれぞれの立場で必要だと思うことを、自由に意見を出してもらいながら、策定作業を進めていきたい。

基本目標2の(1)の「子どもに寄り添う人」という表現は、子どもの権利をきちんと受け止めて、子どもに寄り添うことが大切であるという、委員の思いが反映されたものである。

基本目標3の(1)の「居場所の確保」という部分については、本来は確保だけでは不十分で、内容の充実等も求められると思うので、アンケート調査の結果も踏まえて検討していきたいと思う。

基本目標6の(7)の「経済的困難を抱える家庭の支援」については、この言葉があることによって、子ども食堂や無料学習塾という取組に反映され、広がっていったと思う。

現行計画の基本理念について、「子どもの夢輝く」と「みんなでつながりあう」が繋がっておらず、文章として違和感があるため、検討する必要があると思う。

また、具体的な施策の内容については、現在の実施状況等を次期計画に反映させていくことになると思うが、現段階ではその実施状況が分からず、まだ反映させるイメージができない。気になることとしては、最近では子ども食堂などの居場所が増え、不登校児などのケアも充実しているところではあるが、本来であれば学校で不登校にならないようケアする必要があるし、食事についても学校でケアできるのが好ましいと思う。子どもの居場所の確保については、やはり公園やこどもセンター等を作ればよいということではなく、子どもにとって望ましい居場所にしていく必要があると思う。

- 基本方針 「子どもを生み育てることに安心と楽しさを感じ、心が豊かになる暮らしづくり」について、「楽しさを感じ」という前向きな言葉がある一方で、具体的な施策の方向としては、楽しさを感じることができるようになるものがあまり無いように感じる。

また、基本目標10の(3)「子育てに関する情報の提供」については、「提供」でなく「共有」等とした方が双方向の意識になり、事業の形も変わっていくと思う。

- 子育て広場に携わっている中では、子育て支援者と相談機関との連携に課題があるように感じる。基本目標5の(3)に「相談体制の充実」とあるが、「連携」という文言を加えるなどして連携することを意識付けたい。
- 社会的養護を受けて育っていく子どもは、割合としては決して多くないが、数としては少ないわけではない。国は昨今の虐待事件を受け、懲戒権の見直しや意見表明権の保障など、遅ればせながら様々な検討を進めているところだが、相模原市においても子どもの権利保障の充実を図っていく必要がある。

中学生になると部活動などもあり、こどもセンターに遊びに行く機会は減るが、公民館などで吹奏楽部の生徒が演奏をしたり、美術部の生徒が地域のお祭りのポスターを作成するなどして、地域との繋がりを持っているため、そういった取組も施策や計画に反映できればいいと思う。

地域差があるかもしれないが、かつて中学生は、ジュニアリーダーとしての活動や、公民館で小学生に勉強を教えるなど、小学生との関わりが多かったが、減少傾向にあるように感じる。時代の変化とともに子どものニーズも多様化しているため、子どもの意思を尊重しつつ、様々な選択肢を用意できれば望ましいと思う。

公立の児童クラブにおいては、通常3年生まで預かることとなっているが、6年生まで預かることができる民間の児童クラブにおいては、高学年の子どもが低学年の子どもの面倒を見るなど学年を超えた交流があり、6年生になるとリーダーシップも発揮するようになる。そういう子どもは、中学生になっても児童クラブに遊びに来たり、ジュニアリーダーになる子どももいるので、そのような効果を生むためにも児童クラブは6年生まで預かることが望ましいと思う。児童育成指導員や場所の確保などの課題もあり、費用がかかることなので難しいとは思いますが、市として力を入れてほしい。

児童クラブについては、国において運営基準を緩和する方向で進めているが、運営の質を保つためには、国が示す基準が必ずしも理想的とは言えない状況もあり、相模原市として児童クラブの在り方を検討する必要がある。

発達障害の子どもについては、その数が増えると共に不登校になる子どもも多いと聞いている。学校以外に居場所があることは良いことだと思うが、一方で学校は多くのことを学べる場所なので、本来は学校に通えることが望ましいと思う。校長が変わったことによって学校へ行くようになった子どももいるという話も聞いており、工夫次第だと思うので、そういった取組も検討すべきではないか。

また、子どもたちには「生きる力」を身につけてほしいと思っているため、そのような文言を入れることも検討してほしい。

次期計画の策定にあたっては、現在の取組状況を踏まえる必要があると思うが、第2回子ども・子育て会議に出された平成29年度の事業の実施状況に関する資料では、取組状況がわからないものがある。もう少し詳細な情報が必要であ

と思う。

事業の数が何百とあるので、1つ1つの事業について詳細には記載できていない。また、知りたいことが記載されていないこともあると思うので、そのような場合はその都度質問してほしい。

基本目標2の(4)の「きめ細かな学校教育の推進」とあるが、これを実現しようとする、教職員の負担が増えてしまう懸念がある。学校に求められるものは増える一方だが、その対応は教職員だけでなく、ソーシャルワーカーや地域の協力を得ながら進めていくべきであると思う。

教職員のワーク・ライフ・バランスや学校の在り方等については、現在策定中である教育振興計画の中で取り扱い、子ども・子育て支援事業計画においては詳細には記載しないこととなると思う。教育振興計画の内容と矛盾することが無いよう、整合を図りつつ次期計画を策定していきたい。

- 幼稚園教育振興プログラムについては、これまで幼稚園においてこのプログラムに基づいて振興を進めてきた経緯があるので、その取扱いについては、幼稚園関係者がいる親会議において、検討が必要だと思う。

ひとり親家庭等自立促進計画の取扱いについては、現段階においては特に意見はないが、表現に関する事で、ひとり親家庭には母子家庭だけでなく父子家庭もいるので、「ひとり親家庭」という文言で統一することが好ましいと思う。

本日の各委員の意見を踏まえ、今後策定作業を進めていきたい。

(2) その他

・ ニーズ調査について (報告)

ニーズ調査の結果については、まだ一部の速報値が出た状況ではあるが、この内容を次期計画にどう反映していくかという視点で、各委員において確認してもらえればよいと思う。最終的な結果は、今後あらためて事務局から報告がある予定なので、詳細な内容についてはそこからまた議論していきたい。

3 閉 会

相模原市子ども・子育て会議

子ども・子育て支援事業計画策定部会委員名簿

(五十音順)

	氏名	所属等	出欠
1	荒井 美由紀	相模原市立小中学校長会	出席
2	遠藤 靖明	公募市民	出席
3	片山 知子	和泉短期大学児童福祉学科教授	出席
4	西谷 八千代	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出席
5	藤井 春美	相模原市学童保育連絡協議会	出席
6	松原 充子	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出席
7	村瀬 麻衣子	一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出席
8	山崎 和正	相模原商工会議所	出席

部会長